皮　　膚　　科

1.　皮膚科の紹介

皮膚科は内科系から外科系まで非常に幅広い領域をカバーする必要がありますが、当教室では専門医取得に必要な症例数や学会発表・論文執筆などすべてをクリアすることが出来ます。主任教授の藤澤は四国で２名しかいない日本皮膚科学会認定皮膚悪性腫瘍指導専門医の資格を持ち、皮膚悪性腫瘍に関してトップレベルの臨床および研究のノウハウを持っています。また、当教室は全国的にも珍しい形成外科とのハイブリッド教室ですので、通常では経験出来ないような再建なども学ぶことが可能です。研究面では表皮細胞に関する基礎的研究だけでなく皮膚の三次元培養システムの臨床応用にも取り組んでいます。皮膚病ＡＩ診断システムの研究も進行中です。

2.　プログラムの目的と特徴

皮膚科専門医は最低５年間の専門研修期間が必要で、様々な疾患を経験するだけでなく、最低10回の学会発表と３編の論文執筆が必要となります。そのため、しっかりとした研修システムがないと５年での専門医受検は困難です。当教室では大学病院では珍しい症例や難しい症例を多く経験してもらい、その中で学会発表や論文執筆の指導をします。連携病院でももちろん学会発表や論文執筆は出来ますが、大学病院よりもクリニックに近いCommon diseaseの症例を多く経験することで実践的な技能や知識を身につけることも重要です。また、近年増加している地域枠の専攻医に対応出来るように連携病院における医員枠を増やしています。

3.　経験目標

専門医取得に必要とされる臨床症例経験、皮膚病理診断、講習会出席、学会発表、論文執筆をクリアすることが最低限の目標となります。なお、学会発表も論文執筆も自身が筆頭での業績が求められますので、専門医受検の条件としては比較的ハードルが高いとも言われていますが、当教室では全く問題なくこれらはクリアできるように指導しています。また、自分の興味ある分野があれば追加して研修することも可能です。

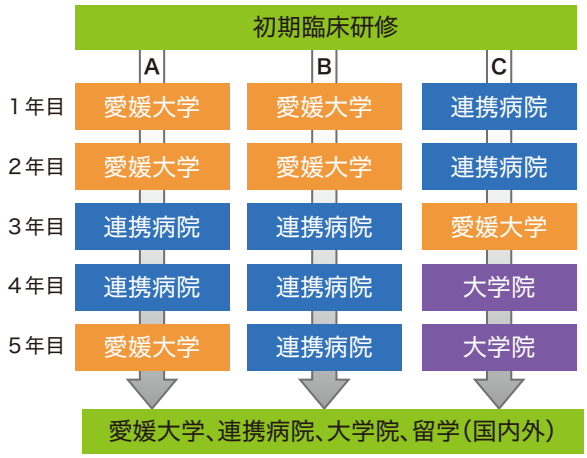
4.　指導医と指導体制

教　授	藤澤　康弘	皮膚腫瘍、オンコロジー
准教授（医局長）	白石　　研	膠原病、皮膚病理
講師（病棟医長）	武藤　　潤	アトピー性皮膚炎 乾癬、結合組織疾患
助教（外来医長）	八束　和樹	乾癬
助　教	西原　克彦	皮膚腫瘍
助　教	吉田　　諭	膠原病

5.　研修に関する行事

	月	火	水	木	金
AM	外来・病棟業務	外来・手術	外来・病棟業務	外来・手術	外来・病棟業務
PM	病棟医長回診・ ラボミーティング	外来・手術・ 病理検討会	教授回診・臨床・ 病理カンファレンス	外来・手術・ 悪性腫瘍カンファレンス （月１回） 病理レクチャー	外来・病棟業務

6.　新専門研修プログラム



研修連携病院には、県立中央病院、松山赤十字病院、松山市民病院、済生会松山病院、市立宇和島病院、神戸大学医学部附属病院、東京医科大学病院があります。準連携施設である当院の形成外科で１年間の研修を行うことも可能です。５年目終了時の専門医取得を目指しつつ、専門医資格取得後のキャリアパスを相談させて頂きます。

7.　専門研修修了後について

専門医取得後のキャリアパスはそれぞれの希望を聞きながら考えていきます。研究に興味があれば大学院への進学や国内外の留学や、臨床研修で国内留学をすることも可能です。また、連携病院の部長や医員として勤務することも可能です。現在、当教室の出身者は県立中央病院、済生会松山病院、松山市民病院、県立今治病院、済生会今治病院、市立宇和島病院などで勤務しています。もちろん、開業という選択肢もあります。

8.　専門研修の問い合わせ先

担当：白石　研（皮膚科学・准教授）　　TEL：089−960−5350
E-mail：e-derma@m.ehime-u.ac.jp